

オンデマンド式授業と対面授業をブレンドした授業「プレゼンテーションの基礎」 の実施と評価

保崎則雄（早稲田大学）・高木博貴（同）・藤城晴佳（同）・垣塚菜生（同）・関根ハンナ（同）

概要：本発表では、通常の対面式授業だけでは得られないと思われるブレンド型授業「プレゼンテーションの基礎」の学習効果について紹介する。対象の授業は、オンデマンド授業を5回、対面授業を1回のブレンド型の実践である。BBSでの書き込みを分析した結果、2番目の書き込みの重要性、機能の特徴、毎回の「反転授業」形式の授業進行の効果的な展開、対面授業では表れにくいブレンド型授業のBBS特有の書き込みの展開などに特徴が見られた。また、本授業を受講した高校生の授業コミュニティへの参加の様相が明らかになり、同時に、ブレンド型授業の特徴も示唆された。全6回の授業後に独自の授業の振り返りアンケート（52項目 五段階尺度評価＋自由記述4問）も実施した。

キーワード：オンデマンド授業、対面授業、ブレンド型授業、プレゼンテーション

1 はじめに

本実践研究の対象とする授業科目は、「効果的なプレゼンテーションの基礎知識と技術」という全学生を対象とした8週間の授業である。外部にもオープンにされており、2017年度は高校生が5名受講した。この科目は、設置（2010年～）以来現在まで8年間毎春学期に開講されており、受講生数は、毎年100名を超えている。今回は2017年度春学期に開講された授業について報告する。

2 授業内容と進め方について

授業内容は以下の通りである。本授業では、技術的なことよりも、コミュニケーション論、メディア論、応用言語学、身体関係学の基礎知識を紹介しつつ、対面授業での実践につなげることを授業構成とした。評価は、授業視聴、BBSディスカッション、対面授業出席を含めた。

- 1回目「授業紹介とプレゼンの基礎知識」
- 2回目「プレゼンにおける言葉の使用」
- 3回目「プレゼンにおけるメディアの使用」
- 4回目「プレゼンにおける身体性」
- 5日目 対面授業（7月8日 13:00-16:15）
- 6回目「授業の総括」

授業の進め方

受講生は、大学のLMSに各回約1週間アップロードされた授業ビデオを視聴し、「ディスカッション」に、①自分発の発言と②他人のメッセージに対して意見を述べることの2種類のメッセージを書き込むように担当教員から指示された。担当教員は受講生の書き込みの多くに一参加者として、コメント、インストラクション、問題提起、反論などのメッセージを書きつつ進めた。

2 研究の方法

（1）調査対象および調査時期

調査対象者：100名（対面授業参加者は68名）

受講生の内訳

	総数	男	女
大学1年生	6	4	2
大学2年生	38	16	22
大学3年生	23	12	11
大学4年生以上	28	19	9
高校生（3年生）	5	5	0

授業実施期間：2017年4月～7月（1単位科目）

授業形態：オンデマンド＋対面のブレンド型

調査対象：毎回のBBSの書き込みと授業アンケート

ート

分析方法：BBS の書き込みの構造分析、各メッセージの機能と内容の分析、多変量解析(授業終了後のアンケート、当日報告の予定)

3 結果

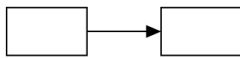
6回の授業において、BBS での書き込み総数は、890(教員が229)であった。以下、1回目のオンデマンド授業(プレゼンの基礎知識)での書き込みから明らかになったいくつかの点について抜粋して紹介する。

BBS 書き込みの典型的構造パターンは以下のものであった(抜粋)。

パターン1



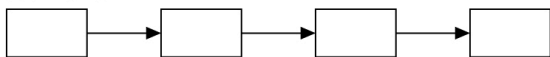
パターン2



パターン3



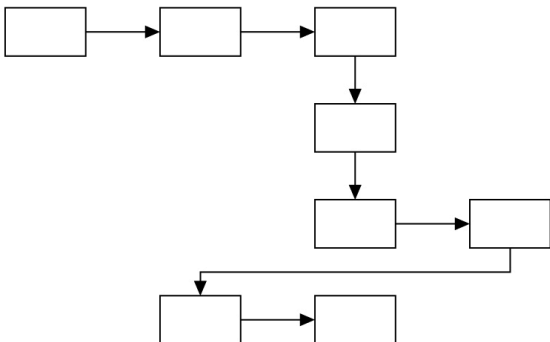
パターン4



注：矢印は書き込みの順、横方向は階層

また、ディスカッションが深まって、書き込みが増えていった構造例には以下のパターン8のようなものがある。

パターン8



下は、それぞれの書き込みの機能、関係性についての一部である。

パターン8；5番目の書き込の関係性(抜粋)

「以前、カフェで、ラテアートの世界チャンピオンの方に目の前でつくってもらった。描き始める前はピッチャーを持つ手が緊張で震えていましたが(観

察)、描き始めたら震えがまったくなくなっていました(発見)。自分をコントロールする能力を身につけて成果を出しているのだとわかりました(考察)。(中略)緊張がパフォーマンスを上げるというラグビー選手の話(例示)。適度な緊張を積極的に活かすという視点もいいかもしれません(提案)。」

4 考察

1) 直線的なコメントの連結が観察されたことは、当初からの予想どおりであったが、1回で終結、あるいはそれ以上発展しない書き込みの要因には、メッセージの「断定性」「完結性」「排他性」や、「教示性」という特徴が見られた(実際の書き込みは当日提示)。このことは対面授業での発言、発問に対する回答の機能と似ていると思われる。BBSでも2番目のメッセージが重要であり、学生、教員が2番目に書き込む場合には内容、表現を工夫する必要がある。

2) 当初、大学生は実体験から、高校生は経験知の不足から、座学などで得た知識を書き込むことが多かったものの、授業進行とともに、高校生のこの学びの場への十全的、主体的な参加がより明確に観察された。

3) 対面授業では、授業進行において時間軸が最重要要素であり、思考、学びはどうしても不可逆的になるが、BBSのようにメッセージ、意見が長く残る文字でのディスカッションでは、過去に書き込まれた、ある意見を遡って考察し、再考し、その内容を取り入れて自分の言葉にして発信するという作業が可能になり、自然な行為となっている。このような時間的空間的な余裕が与えられるディスカッションというのは対面授業ではなかなか生じにくい。BBSの議論では、参加者が常に「考え戻る」ことが可能になり、思考が深くなるという傾向が見られた。このことは、オンデマンド特有のことであり、対面授業でその相違に気づくことができた。

今後は授業のリフレクションを如何に学びにつなげるのかということを精査し、深めたい。

参考文献

当日提示する予定